

高等部 研究授業

令和6年12月6日(金) 富士特別支援学校富士東分校 大澤和俊先生をお迎えして御指導いただきました。

<研修テーマ> 生徒がやりがいを感じる授業づくり

～自ら考え動くためのフィードバックの工夫～

<研究授業> 作業学習（陶芸班）

単元名「作って納得 使って納得 誰もが喜ぶ製品を作ろう」

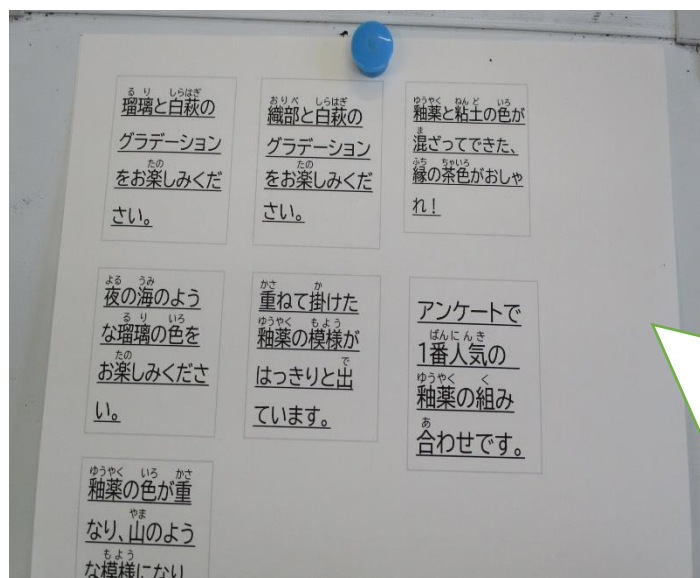
「スローガンで一致団結！」

朝礼では、3年生リーダーの呼びかけに全員が声を合わせて「納得！」コール。続く拍手で自分と仲間を鼓舞。チームが同じ目的に向かって進む雰囲気作りを生徒自身が行います。（バザー当日撮影）



「ここが製品の推しポイント！」

出来上がった製品を一つ一つ手に取り、『推しポイント』を作成しました。
磨きの工程で特に気合を入れた底の手触りや、載せる献立案、アンケート結果を踏まえた釉薬の掛け合わせ etc・・・。
センスが光るコメントは、手塩にかけた製品への愛着と「伝えたい」気持ちに溢れ教師にとっては、生徒の可能性について、『新たな発見』につながりました。



岩附敦史先生には、前回御指導いただいた効果的なフィードバックについて考えながら行った実践を見ていただきました。生徒が「納得感」を得るために、一つ一つの製品に向き合い、良さを「推しポイント」として見つけPRしていく活動そのものが、主体的で効果的なフィードバックになっていると嬉しい言葉をいただきました。今後の実践に引き継いで行きたいと思います。

